

大和市子ども読書活動推進会議 会議記録(要点筆記)

会議名	令和3年度 第4回 大和市子ども読書活動推進会議
開催日時	令和4年3月14日(月) 書面開催
開催場所	書面開催
参加委員	<p><推進会議委員></p> <p>今宮 智子、伊禮 利奈、渡辺 康子、吉野 敦子、山口 真由子、長嶋 智美、古木 幸一、矢嶋 千草、大川 伸子(順不同・敬称略)</p>
公開非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
審議又は検討経過及び結果	<p>1 議事</p> <p>(1)子ども読書よび読むプラン実施計画(案)について</p> <p>(委): 今回の計画では、幼児、小学生だけでなく、0歳～高校生にまで幅広く目標概要があり、内容の進化を実感すると共に、内容に賛成できる。</p> <p>方策1-3-10「おはなし会や読み聞かせ等の開催」に関連することで、4月から新たにこどもの城、こども〜るでも、職員の読み聞かせ以外に地域ボランティアが月1回の定期おはなし会を始める予定がある。</p> <p>(委): 新規の実施計画が多数あるので今後の推移を期待したい。</p> <p>実施計画 28「地域に根ざした読書拠点の支援」について、具体的な内容について知りたい。</p> <p>(委): 新規の取組が10もあり、とても前向きな良い取り組みで、特に3、4、あるいは9、15、30は推進したい取組だと考える。取組 4「親子で調べる学習の推進」について、各学校での学びの中でさらに深く調べたいという視点をより多くの子ども達が持てるように、教員から指導することが大事だと考える。普段の学習の中で疑問に思ったこと、さらに深く知りたいと思ったことを何らかの形で残し、それをたとえば夏休みの自由研究などの時に親子で取り組めたらすばらしい取組になる。</p> <p>(委): 策定に賛成する。コロナ禍で計画を実施することには苦勞を伴うと思うが、計画を進めていってほしい。</p> <p>(事): 反対意見無しのため、本案を最終案として教育委員会へ提出する。</p> <p>(2)令和4年度の子ども読書活動に関わる新しい取組について</p> <p>(委): セカンドブックや絵本スポットにおすすめできる絵本としては、視覚効果に訴える絵本、エッセーのたまし絵等が良い。</p> <p>「光の旅かげの旅」(1984年 評論社 作・絵:アン・ジョナス 訳:内海 まお)は絵だけでなく文章も良く、読むと楽しさが倍增する。</p> <p>絵本スポットにしかけ絵本やページを広げるものは痛みが激しいのでお勧めしない。本を手にするきっかけづくりとなるので、貸し出してじっくり読む図書館の本とは異なり、その場でぱっと楽しめるものが良い。</p> <p>うちどくブックリスト、読み聞かせブックリストの本を活用するのが良い。</p>

(委):セカンドブックについては、おでかけに持ち歩ける絵本が良い。歌が入っている絵本(母親が歌って読み聞かせしたり、子どもと一緒に歌ったり楽しい絵本があると良い)、だるまさんシリーズ(ブロンズ新社 作:かがくいひろし)、しかけ絵本もまだ楽しめる年齢だと思われる。{くだもの(1981年 福音館書店 作:平山 和子)、いないいないばあ(1967年 童心社 文:松谷 みよ子 絵:瀬川 康男)など}

まちなかスポットについては、大人が読んでもクスッと笑えるような絵本があると良い。(ヨシタケケンスケさんの絵本など)、こどもが読んでいておすすめ絵本は、迷路、ウォーリーをさがせ!(フレーベル館 作:マーティン・ハンドフォード)ミニ図鑑、世界の名作シリーズがあると良い。

(委):セカンドブックや絵本スポットの絵本として、定番であればかこさとしさんの絵本、「ぐりとぐら(1967年 福音館書店 作:中川 李枝子 絵:大村 百合子)」「かいじゅうたちのいるところ(1975年 富山房 作:モーリス・センダック 訳:じんぐう てるお)」などか。「ピッツァぼうや(2000年 らんか社 作:ウリアム・スタイク 訳:木坂 涼)」「ハグくまさん(2011年 クレヨンハウス 作・絵:ニコラス・オールランド 訳:落合 恵子)」「キャベツくん(1980年 文研出版 作:長 新太)」「いいこってどんなこ?(1994年 富山房 作:ジーン・モデシット 絵:ロビン・スポワート 訳:もき かずこ)」などもおすすめできる。

(委):従来から図書館で発行されているブックリストから選本するのが良い。

(委):「ぐりとぐら」「ノンタンぶらんこのせて(1976年 偕成社 作:キヨノ サチコ)」「しろくまちゃんのホットケーキ(1972年 こぐま社 作:わかやま けん)」は定番ながらおすすめできる。

文章は無いが、「チャレンジミッケ!シリーズ(小学館 作:ウォルター・ウィック)」は子どもが遊べる本としておすすめできる。

(委):絵本スポット用の絵本として、待合室等に置くものとして「ながーい5ふん みじかい5ふん(2019年 光村教育図書 文:リズ・ガートン・スキャンロン オードリ・ヴァーニック 絵:オリヴィエ・タレック 訳:木坂 涼)」、役所等に置くものとして「うみのどうぶつとしょかんせん(2012年 教育画劇 作:菊池 俊 絵:こばようこ)」をすすめたい。置く場所に合った選書も必要に思う。

(委):昔ばなしは色々なところから出版されているが、オーソドックスな昔ながらのものを置くと良いと思う。

戦争の恐ろしさも伝えていきたいので「ひろしまのピカ(1980年 小峰書店 作・絵:丸木 俊)」等、戦争を扱った絵本も多くの子どもに触れてほしいと思う。

(3)その他ご意見

(委):セカンドブックなど新しい取組についてとても期待ができる。

子どもが産まれる前の妊婦さんへの大和市が掲げる「絵本のまち」の認知度を高めていけたら、もっといろいろな向上へつなげられるのではないかと、胎教にも絵本は良いと考えるので、何かイベントがあれば面白い。

(委):電子書籍についてもっと知りたい。学ぶことのできる機会があれば良い。

(委):読書推進のアイデアとして、図書館で事前申し込み制の絵本選書サービスがあると良いと思った。絵本を選んだことが無い親にとって、知らない絵本やなかなか手に取らない絵本を読むきっかけづくりとして「図書館司書に選んでもらう」ことは有効に思う。

今の返却システムでは難しいかもしれないが、次の人にもおすすめしたい絵本を書架のエンド(端)に面陳で置けるような仕組みがあれば、絵本を選ぶことに悩む親の参考になるのではないかと。

以上

(委:委員 事:事務局)